

2021年4月吉日

幼稚園保護者の皆さまへ

学校法人いいつな学園事務局

2020年度 学校評価のまとめ

～ こどもの森幼稚園 ～

1. 本年度の学校評価への取り組み

いいつな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、以下のとおり学校評価に取り組んでいます。

学校評価の流れ

2020年 2月	保護者アンケートの実施
2020年 3月	保護者アンケートを受けての自己評価 保護者に保護者アンケート結果を報告 評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施 評価方法:保護者・自己評価を受けての意見聞き取り及びアンケート調査
2021年 5月	理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告 ホームページに外部関係者評価を掲示

2. 自己評価の結果について

保護者アンケートでは、いくつかの項目で評価が若干上昇しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、子どもの様子を直接保護者に見て頂く機会が少なく、その面での評価は下がりました。

ただ、昨年度より園児・保護者の言葉に耳を傾けて意図を汲むコミュニケーション力が教職員に育ったと考えます。また、本園の一番の特色である自然環境を活かした活動と異年齢混合での活動をより充実させ、丁寧に指導することも必要と考えます。

3. 外部関係者評価の結果について

全体的に、活動の内容について高い評価を頂きました。ポートフォリオについては、その手法と内容に高い評価を頂きました。

また、地域からは、指導や活動などについて高評価を頂き、もっと積極的に地域へ声掛けをと言って頂きました。森の中などに出掛けることが中心の幼稚園活動であるため、通常時は幼稚園のある地域との交流が多くありますが、子どもの人数が減少傾向にある本地域において、今後も幼稚園として貢献できる活動を行っていく必要があると考えます。

また、保護者との係わりにおいては丁寧な説明の必要性と重要性についてご指摘を頂きました。

4. 来年度への課題

今年度の評価結果を受け、来年度における課題として以下の点が挙げられます。

- 1 自然体験活動を通して、保護者と子どもに「生」「命」に繋がる衣食住への気づきと興味を持ってもらう
- 2 子ども・保護者・教職員共に風通しの良い関係性を構築する
- 3 未来を担う子ども達に、より良い”生きる環境”を残すために「大人」ができることを考え、実践していく。

5. 来年度の重点事項

- ① 自然体験を中心においた教育の充実を図る
- ② 教育目標を柱に園児、保護者、職員が対話を大切にし、主体的、創造的な育ち、助け合いの人間関係を構築していく
- ③ 衣食住をテーマにした活動を行う自然体験を中心においた教育の充実を図る

2020年度 こどもの森幼稚園評価シート

2020年度こどもの森幼稚園の学校評価は以下のとおりとなりました。

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

※ 評価段階 : A > B > C > D

項目		評価			
		保護者	自己	関係者	
教育活動について	1	子ども達は、幼稚園を楽しみにしていると評価できる。	A	A	A
	2	保護者は週のお便りやHP等で、園や子どもの様子がわかっていると評価できる。	B+	B+	A
	3	保護者は参観・懇談会やさまざまな行事などで、子どもの様子や育ちがよく理解できていると評価できる。	B	B+	A
	4	先生は、子どものことについての相談事に適切に対応していると評価できる。	B+	A	B+
教育方針等について	5	保護者および教員は幼稚園の教育方針を知っていると評価できる。 「いのちを慈しみ いのちを育む」～自然の恵み・手づくりの愛情～	B+	B	B+
	6	幼稚園は、様々な自然体験を通して、自然と人の絆を育め合える保育を提供していると評価できる。	B	B	A
	7	今年度、幼稚園は「子どもと先生と親がお互いに対話し認め合い 柔軟に学び育ち合う教育(共育)」活動を行ったと評価できる	B	B	B+
保育について	8	先生は、保護者とコミュニケーションを積極的に取りながら保育を行っているという評価できる。	B	B+	B+
	9	子ども達は、元気良く活動していると評価できる。	A	A	A
	10	幼稚園は、年齢別活動と年齢混合活動を取り入れて、子どもたちに思いやりの心を育てようとしていると評価できる。	B+	B	A
	11	子どもは、幼稚園の絵本などの読み聞かせを楽しみにしていると評価できる。	B+	A	A
	12	先生は、子どもを理解し、子どもの性格や長所を把握して指導にあたっていると評価できる。	B+	B+	A
	13	先生たちは協力して教育活動にあたっていると評価できる。	B+	B	A
外部評価者の意見	<p>山間部に所在する等幼稚園は、恵まれた自然の中で、園児たちが思い切り活動すると共に、その活動の中でお互いに助け合って行動していることは高く評価されて良いと思います。この自然に恵まれた中で、活発に活動していることは、肉体的、精神的に大変良いことと思います。グループの活動も、各グループの年長者が年下の園児の世話や、遊びの指導を自ら行い、活動していることは、園の日頃の指導の様子がうかがえます。こうして園児たちと身近に接し私も大変良い経験をさせて頂きました。今後に向けて今回のように地域の方々にも声掛けをして頂きたいと思います。</p> <p>2020年度はコロナ禍のために訪問できない状況でしたが、普段の様子から分かる範囲で評価をしました。保育者の数に対して子どもの数が多くないこと、保育の方針が明確になっているという点から、きっと子どもにしっかりと向き合った保育をしてきたことと思います。数年前から始めているポートフォリオ型の記録は、子どもの日々の経験やそこでの育ちを伝えるのに良いツールだと思っています。遊びを中心とした保育はなかなかその内容を理解してもらいのが難しいものですが、子どもたちの経験をベースに、それらがどういった学びにつながっているのかを写真とともに短い文章で説明してあることが効果的です。幼児教育・保育は子どもたちの「楽しい」という気持ちが大前提ですが、その上でそれらの楽しい活動にどういった学びがあるのか。そこは園や保育者が丁寧に伝えていく必要があると感じています。保護者さんとの関係については、年に数度しか訪問することのない私にはなかなか見えにくいところですのでBの評価と致しました。きっと、こどもの森幼稚園の保育方針に理解のある方が登園させていることだと思います。その上で、日々の実践を伝えていく努力を今後も継続していただければと存じます。</p> <p>学校評価を拝見し、改めてこどもの森幼稚園の教育活動が保護者の期待に沿う実践であると感じることができました。2年に渡るコロナ禍の中、園の教育理念やそれを実現させるための活動を家庭と共有すること、保護者との対話、コミュニケーションの困難さについては、日本中どの園でも頭を悩ませていることと思います。しかし、こどもの森幼稚園では、このような状況においても積極的に保護者と情報を共有し、子どもの育ちを保障しているという姿勢が見られます。こうした姿勢により、不自由な状況で不安が高まる中でも、保護者の園に対する評価が上昇したと考えられます。子どもの様子を家庭と共有するツールとして「ポートフォリオ」は国内外で注目されていますが、こどもの森幼稚園の保護者についても80%がその有効性、利便性を認めているとのこと、こうした高い評価を得ている実践についてさらにブラッシュアップしていくことが大切であると考えます。次年度以降の重点項目である「自然体験を中心においた教育」「衣食住をテーマにした活動」は、人、環境とのつながりが重要となることから、園と保護者が地域文化の担い手として、さらに連携を深めていく必要があるのではないのでしょうか。こどもの森幼稚園の教育が現代社会のニーズにあった、レベルの高い実践であると考えた立場から、今後ますますのご発展を期待しております。</p>				
	来年度の課題	<p>1 自然体験活動を通して、保護者と子どもに「生」「命」に繋がる衣食住への気づきと興味を持ってもらう</p> <p>2 子ども・保護者・教職員共に風通しの良い関係性を構築する</p> <p>3 未来を担う子ども達に、より良い”生きる環境”を残すために「大人」ができることを考え、実践していく。</p>			
	来年度の教育活動における重点項目	<p>自然体験を中心においた教育の充実を図る</p> <p>教育目標を柱に園児、保護者、職員が対話を大切にし、主体的、創造的な育ち、助け合いの人間関係を構築していく</p> <p>衣食住をテーマにした活動を行う自然体験を中心においた教育の充実を図る</p>			